



学校だより 8・9月号

令和4年8月29日発行

『豊かな体験』

校長 中村 智

夏休み中も5年生が交代で学校に来て、水を与えるなどの世話をしてきた稲がすくすくと生長しています。穂が出始め、花を咲かせている稲もあります。

長い夏休みが終わりました。子どもたちは、日頃はなかなかできないような体験や学習をして、視野を広げたり考えを深めたりしたことと思います。



私は実家のある九州宮崎県に帰省しました。実家は周りを田んぼや畑に囲まれた地域です。実家に帰ると作業が待っていました。その一つは草刈りです。夏場は雑草の伸びがはやく、家の前の道路脇や畑は雑草が生い茂っていました。草刈り機を肩に背負い草刈りをしました。当初草刈り機のエンジンがかからず焦りましたが、草刈り機の型式をネットで検索し、説明書を読んで操作をしてエンジンがかかったときはほっとしました。鎌での草刈りとは格段に作業効率が違うからです。草刈り作業を進めながら、どうしたら効率よく草刈りができるか、安全に作業するにはどうしたらよいか等を考えながら作業を進めました。

畑は草を刈っただけではしばらくするとまた草が伸びてくるので、耕運機で耕運をしました。耕運機も最初はエンジンがかからず、何回も何回もエンジンをかける紐（スターターロープ）を引いてエンジンを始動し、作業ができるようになりました。畑の中を何回も往復して畑を耕します。この時も、草刈りのときと同じように、作業効率や安全について考えながらの作業です。

家の横には竹林があり、道に倒れそうな竹や年数の経った竹はチェーンソーやのこぎりで切り倒しました。長さ10数メートルの竹を切り倒し、枝を落とし、所定の場所に運ぶのは結構な力仕事です。やはり作業効率や安全のことは頭の中にあります。

午前の作業を終えてシャワーを浴び、昼食と休憩。そして午後の作業。作業後は、またシャワーを浴びます。一仕事終えて自分なりの達成感を感じながらシャワーで汗を流すのは気持ちのよいものです。

草刈りにしても、耕運にしても、竹の伐採にしても、横浜での私の生活の中ではやらないことで、日常的にこれらの作業をされている方が、私の作業を見れば要領の悪さや器具の操作についていろいろと指摘されそうです。しかし、要領は悪くても何とか作業ができたのは、子どもころからこのような作業を近くで見たり、手伝ったりしてきたからです。過去の経験がいきました。そして、作業効率や安全について考えながら作業したからでしょう。

夏休み明け、宿泊体験学習や校外学習等が予定されています。また、各教科の中でも、活動をともなう学習があります。依然として新型コロナウイルス感染症は高止まり傾向にありますが、感染対策を行いながら、子どもたちに「豊かな体験」を積ませていきたいと思います。体験を通して、視野を広げ、考えを深め、そして、子どもたちの自尊感情や自己有用感を高めていきたいと考えます。